

2017年6月



子どもへの

薬の上手な飲ませ方

乳幼児や小児では服薬が難しいことがあります。

薬について理解できない子どもにとって苦い・良く分からない物を口に無理やり入れられる体験は、薬嫌い・偏食・大人への不信感に繋がります。無理強いをするのではなく、嫌がる原因を探って解決することが、上手に薬を飲ませる第一歩になります。

子どもが受ける苦痛と恐怖をできるだけ少なくしながら、安全に服薬するために必要な知識や服用方法を知っておきましょう。

シロップ剤の場合

0～3歳くらいの子供に多く処方されるシロップ剤は、オレンジやイチゴなど、子どもの好む色や香り、味に工夫されています。

●スプーン

シロップをスプーンに入れ、スープを飲ませる要領で飲ませます。スプーンは心もち奥に入れ、ゴクンと飲ませる。奥に入れすぎるとえずいてしまうので注意。



●スポイト

シロップをスポイトで吸い上げ、先端を頬の内側に沿わせて少量ずつ唾液と一緒に飲ませる。のどを突かないよう注意。



●哺乳びんの乳首

哺乳びんの乳首に薬を入れて飲ませる。空の乳首を吸わせておいて、その後にシロップを入れてあげるとスムーズに飲めませす。時間がかかり嫌がる場合、乳首の穴を少し大きくしましょう。



●小さめのコップ

少し大きくなったら、小さめのコップに入れて飲ませる。甘みを嫌がる時は、飲み残さない程度の水で薄める。



薬を嫌がる原因は大きく分けて4つ

薬の食感

- ・別剤形へ変更
- ・水に溶かす
- ・スプーンですくう

薬の味

- ・1歳前後は好物に混ぜて隠す
- ・2～3歳は隠さずほめる
- ・3歳以降は選ばせる

薬嫌い

コミュニケーション

- ・笑顔で接する
- ・薬を飲めたらほめる
- ・お薬手帳にシールを貼る

病気

- ・無理に飲ませない
- ・飲み込みやすい剤形に変更
- ・服用補助ゼリーの活用

散剤の場合

散剤には粉薬・細粒・顆粒・ドライシロップ(DS)などがあります。シロップより保存性に優れ、持ち運びしやすい薬です。

DS：使用するときには溶かしてシロップとして服用する粉薬

●水などに溶かす

小さな容器に粉薬を空け、1～2mlの水と混ぜて、スポイト・哺乳瓶の乳首・スプーンで飲ませる。



先端を頬の内側に沿わせて少量ずつ唾液と一緒に飲ませる。

●ペースト状に練る



小さな容器に粉薬を空け、1～2滴の水と混ぜて、ペースト状に練る。練った粉薬を指先につけ、頬の内側や上顎に塗る。最後に水を哺乳瓶などで飲ませる。

●食べ物に混ぜる

ジャム・ゼリー・ヨーグルト・プリンなど子どもが好きな食べ物に混ぜたり包んだりして、スプーンで服用させる。



💡 はちみつには幼児ボツリヌス症の原因となる菌が含まれているので、1歳未満の乳児には与えないでください。

💡 幼児には薬の必要性を分かりやすく説明し、飲み終えたらほめる。

💡 薬と混ぜる食べ物には相性があります。子どもが服薬しやすい食べ物を選ぶと良いでしょう。

💡 抗生物質は苦味が増さない中性タイプの服薬補助ゼリーがおすすめ。



薬と食べ物との組み合わせ・味・香りなどについて調べた資料があります。ご希望の方はお気軽に薬剤師までお声掛けください。

主な服用補助食品の例と特徴

食品例	特徴
アイス	味が濃く、特に苦味の強い薬をマスクできる。
ヨーグルト	食べさせやすいが、酸性下で苦味が出たり、薬効が低下するものもあるため注意。
プリン	甘味が強く、カラメルの苦味により薬の苦味をマスクできる。
服用補助ゼリー	薬を挟み込むようにする。製品により pH が異なるので注意。
練乳・ ピーナツクリーム	甘味が強く、粘り気もあるので薬の食感や味をマスクできる。
ココア・ チョコレート	味が濃く、特に酸味のある薬をマスクできる。
味噌汁・ポタージュ	甘味が苦手な患者に適している。
バナナ	甘い香りが強く、味やにおいもマスクできる。 ペースト状にして薬を挟み込むようにする。

(赤ちゃん子育て&インフォ / 小児科臨床 Vol.60 / すこやかライフ
No.48 / 各製薬メーカー指導箋・添付文書 / 乳幼児・小児服薬解除ハンド
ブック 参照)



オーロラ薬局

TEL 019-635-1233 FAX 019-635-4555

オーロラ薬局沼宮内店

TEL 0195-61-3883 FAX 0195-62-6868

オーロラ通信はホームページでもご覧になれます。

<http://www.iwate-aurora.com/>